

出雲地区

保護司会だより

第14号

島根あさひ社会復帰促進センター

における就労支援活動

更生支援企画官 友 繁 俊 和

島根あさひ

実施



ひ社会復帰
促進センタ
ーは、平成二
十年十月に

PFI事業として運営を開始した刑
事施設であります。

PFI事業とは、従来国や地方が
行っていた公共施設等の建設、維持
管理、運営等において民間の資金、
ノウハウを活用することで、より効
率的で質の高い公共サービスを提供
するものです。

当センターでは、施設を運営して
いく上での基本方針として「官民協
働の運営」「地域との共生」及び「人
材の再生」を掲げています。

具体的には、

- 一 国の知識・経験と民間のノウハ
ウを活用した施設運営
- 二 地域の人材・資源を活用し、地
域と共に歩む施設に
- 三 受刑者の再犯を防止し、社会の
担い手として自立させるための
教育プログラムや職業訓練等を

することによって、受刑者の真の改
善更生と円滑な社会復帰の実現を目
指しています。

さて、本年は「社会を明るくする
運動」六十回目を迎え、三つの行動指
針が定められ活動されました。また、
重点事項として「立ち直りを支える
取組についての理解促進」と「犯罪
や非行をした人たちの就労支援」の
二項目が掲げられました。

このうち、就労支援は、受刑者の
釈放後の生活基盤を確立するととも
に、再犯を防止し、円滑な社会復帰
及び改善更生を図る上で極めて重要
なものであり、法務省と厚生労働省
が連携して行っている施策でもあり
ます。このため、当センターにおい
ては、重要課題として次のとおり実
施しています。

- 一 ハローワークや保護観察所への
連絡
- 二 ハローワーク職員による職業講
話、職業相談、職業紹介
- 三 出所者へのハローワークガイド

ブックの配布

また、就労するための基盤作りと
して、雇用情勢に応じた各種の職業
訓練や、職場における人間関係に適
応するのに必要な心構え及び行動様
式が身につけていない人への改善指
導を積極的に行っています。

これらのことは、当センターの理
念でもある受刑者の真の改善更生と
円滑な社会復帰に結びつくものであ
りますが、所詮、施設内での活動に
過ぎません。本当の意味で就労支援
を行うためには、地域社会の理解と
協力を得なければ実現できません。

当センターでは、これからも社会
を明るくする運動を通して、地域社
会の方々と手を取り合って、受刑者
の社会復帰支援を行ってまいります
ので、今後とも格別のご支援とご協
力を賜りますようお願いいたします。



人はみな、
生かされて
生きてゆく。
更生保護ネットワーク60周年

平成二十二年度「社会を明るくする運動」

標語及び作文入選作品の紹介

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部として募集しました。

標語一般の部に、出雲市、斐川町にお住まいの方から総数百十五点の応募があり、小・中学生の部で斐川町から、小学生三百二十五点、中学生四十二点の応募がありました。

出雲市では出雲市青少年育成市民会議と共催し、小学生四百六十八点、中学生七百二十七点の応募がありました。

また、島根県社会を明るくする運動推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から六十二点、中学生から十九点の応募がありました。当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり決定しました。ここに掲載させていただきます。

一般の部

最優秀賞

子育ては

叱ってほめて 愛こめて

大津町 石橋 律子

優秀賞

立ち直る

君の決意に 支える輪

芦渡町 石橋 厚

● 優しさの

キャッチボールで 明るい社会

大杜町 今岡 愛子

● 立ち直る

新たな一歩に 地域のエール

斐川町 古川 直子

● 流される

弱い心に 負けない勇氣

斐川町 古川 美保

● ありがとう

心の支えは 笑顔のあなた

斐川町 古川 祐史

● 支え合う

絆で築く 明るい社会

小山町 堀川 汎悦

佳作

● みんなある

小さな勇氣が 大きな力

佐田町 安食 牧子

● 見逃すな

あまい言葉に 非行の芽

平田町 磯崎 又司

● 近所よその子も

我が子と同じ ほめことば

斐川町 内部 佐依

● 早咲きも

遅咲きの子も 世の宝

湖陵町 打田 薫

● 登下校

共に声かけ 町づくり

斐川町 瀬崎 千年

● くじけない

その辛抱に 光る明日

天神町 高橋 弘吉

● 明日の夢

子どもが語れる 場所づくり

白枝町 谷口 康治

●よその子も

わが子と同じ 見守る目

白枝町 谷口由起子

●限りなく

支える愛情 見守る社会

佐田町 田部 時夫

●あいさつで

とりもつ縁が 輪を広げ

大社町 林 宏

●声かけあつて

みんなでつくろう 明るい社会

西園町 山本 初枝

出雲市〈小学生の部〉**最優秀賞**

あいさつで

心にポツと 灯がともる

灘分小学校四年

稲田 咲貴

優秀賞

●やめようよ

差別やいじめ しらぬふり

長浜小学校五年

柳楽 尚実

●「ありがとう」

一言だけで 心ほかほか

灘分小学校二年

たくわ かほ

出雲市〈中学生の部〉**最優秀賞**

●ポイ捨ては

自分の良心 捨てること

第三中学校三年

山田 菜由季

優秀賞

●みてるだけ

そんなあなたも いじめっこ

第三中学校一年

富田 日々喜

●ありがとう

言葉が心を あたためる

南中学校三年

神谷 明果

斐川町〈小学生の部〉**最優秀賞**

明るい社会をつくるには

やさしい心と

みんなのゆうき

出東小学校四年

飯塚 麻衣

優秀賞

●地域の目

僕らを守る 大事な目

莊原小学校六年

小松原 拓実

●何かやろう

一日ひとつ 社会のため

西野小学校六年

三加茂 光洋

斐川町〈中学生の部〉**最優秀賞**

「やめようよ」

言える自分に なりたいな

斐川西中学校一年

和田 颯太

優秀賞

●おかえりなさい

その一言で ほつとする

斐川西中学校三年

梶谷 実可

●がんばれと

仲間の言葉で 勇気です

斐川東中学校一年

大坂 奈津美



作文コンテスト優秀作品

だれもが

笑顔になるために

岐久小学校四年

門脇 真白

私がいごと買い物に出かけた時のことです。私が買い物をしてい

る時に、車いすに乗って買い物をして

ておられるおばあさんを見かけまし

た。

何気なくおばあさんを見ると、ほ

しい商品に手がとどかずこまっ

ておられるおばあさんに私は勇気を出

して声をかけ、商品をとって、

「ううぞ。」

になりました。

おばあさんが、こまっ

ておられる

のをそのままにしておくことができ

ませんでした。

「たのみたい事があつたら、私に言

ってください。気をつかわれなくて

もいいですよ。」

と、声をかけました。一番はじめは、

声をかけることに勇気がいったけれ

ど、次の言葉をかける時はしぜん

に言葉が出ていました。自分でもびっ

くりしたけれど、私の心がポカポカ

している感じがしました。

おばあさんの買い物に私はついて

歩きました。おばあさんは、足が不

由で車いすに乗っておられたので、

私は車いすをおしながらゆっくり歩

きました。おばあさんと私はいっし

よに買い物をしました。おばあさん

はとてもうれしそうでした。二〇二

〇顔のおばあさんを見て、私は人の

役にたてたことがとてもうれしくな

りました。

おじいさんが迎えに来られ、おば

あさんとわかれしました。おばあさん

は、ずっと私に手をふつてくれてい

ました。私もおばあさんに手をふり

ました。

おばあさんも笑っていたけれど、

私も笑っていました。私の心も笑っ

ていました。

何日かしてその店に行くと、前に

出会ったおばあさんにぐうぜん会

いました。この時が二回目です。おば

あさんは、車いすで買い物をしてお

られるとちゅうでした。おばあさん

にまた会うことができて私はとても

うれしかったです。おばあさんは、

私のことを覚えてくれていました。

一番初めに会った時おばあさん

はめがねをかけておられました。で

も、二回目に会った時はめがねをか

けておられませんでした。おばあさ

んは、目を治すために病院に行つて

治りようをされたようです。

「おばあちゃん、大丈夫?」

と、声をかけると、

「ありがとう。大丈夫だよ。めが

ねだとちょっと見えにくかったから

ね。」

と、答えてくれました。おばあさん

のやさしい声を聞いて私はホッとし

ました。



環境と

未来を見すえて

浜山中学校三年

大 國 理 紗

私は今年の夏、ボランティア活動の一環として、海岸清掃に参加しました。近年、地球温暖化やゴミ問題が環境問題として大きく取り上げられています。そのため、二酸化炭素削減、ポイ捨て禁止などが呼びかけられ、私の中の環境問題に対する意識も高まりつつありました。

そんな中、毎年のように、長浜海岸清掃のボランティア募集がきていて、今年もまた、その募集がありました。例年、ボランティア募集があることを知りつつも、『誰かがやってくれる』と単純な気持ちでいたため、参加していませんでした。そんな私は、毎年夏になると、軍手とゴミ袋を持って海岸清掃に出かける祖父を、不思議な思いで見送っていました。

今年の夏休み前、学校に、ボランティア募集のポスターが掲示されているのを通りすがりで見た私は、『今年もまた、清掃をするのか』と思うつつも、自分の中で、清掃に参加し

ようという思いは持っていませんでした。帰宅後、家族で海岸清掃の話をしていると、祖父が「今まで育ててくれた地球に感謝し、これから、美しい環境であってほしいと思うなら、一度参加してみるといい。毎年ボランティアに参加している人の気持ちも理解することができるともしれん」と言ってくれました。その言葉に背中を押され、初めての海岸清掃に父と参加することにしました。

当日の朝、海岸に着いた私は、広い駐車場にすき間がないほど駐車されている風景、たくさんの人たちが集まっている海岸を見て、驚くばかりでした。大人から子どもまで、いろんな世代の人たちが、長浜地域のことを思って、朝早くから集まっていたのです。そこから約一時間、誰もが汗を流しながらも一生懸命にゴミ拾いをしていました。一見きれいでゴミの無さそうな長浜海岸も、よくよく探すと、発砲スチロールやペットボトルなどのゴミがたくさんあり、外国から流れついたものもありました。全員で集めたゴミの量は、ゴミ袋の何十袋分にもなりました。あれだけゴミのあった海岸も、みんなの力でずいぶんきれいになり、疲れてはいけど、それを吹き飛ばす

ぐらいの『参加してよかった。きれいになって気持ちいい』という達成感がありました。そして、また来年も、このボランティア活動に参加しよう、という気持ちがいってききました。こんな気持ちになれたのは初めてでしたが、毎年朝早くから、軍手とゴミ袋を持って、いきいきとした姿で清掃に行っていた祖父の気持ちに分かった気がしました。

私たちの活動に『ありがとう』とお礼を言うように、波は何度も優しく砂浜に打ちつけ、いつもの数倍の輝きを放つ海岸は、喜びに満ちているようでした。

一人だけの力では、こんな達成感を味わうことはできなかったと思うし、私たちの海岸が美しく保たれているのは、この地区のすべての人たちの思いが一つになっているからだと改めて感じました。

私たちが毎日、気持ちよく生活しているその裏で、地域の方々が、どんな思いで汗を流しながらボランティア活動をしておられるのかを考えてみてください。海岸清掃だけでなく、あらゆるところで、私たちのことを思い行動してくださっている人がたくさんおられるということも知ってください。そして、その思いに気

づいたら、地域の人々のため、地域の環境のため、そしてこれからのために、今自分がすることは何なのかを考え、行動を起こし、はじめての一步を大きく踏み出してください。そしてこれは、地域のみならず、けでなく、すべての人に。

「あなたが何気なく落としたペットボトルやたばこの吸い殻などを、一生懸命拾っている人がいるんです。少し気をつけられませんか。のに、人に任せていいんですか。みんなが住みよい地域環境をつくるために、どんなに小さなことでもいいから、やり続けていきましょう。その積み重ねがいつか大きな成果となって、現れると思います。」

私はこの夏の経験を通して、自分に与えられた任務をみつめました。それは、これから、環境のこと以外にも、地域の方の力になれるようなボランティア活動を続けていくことと、一人ひとりにちゃんと意味を理解してもらった上での、環境保護を呼びかけていくことです。

いつかは、温暖化ストップやポイ捨て禁止などと言われなくても、地域環境が保たれるといいです。

山本議司氏の講演に学ぶ

「共に支えあう地域社会」をつくるために

保護司 柳 楽 利 子

第六十回「社会を明るくする運動」の協賛事業として、特定非営利活動法人いずもサポートセンターが主催し、出雲地区保護司会及び出雲地区BBS会が共催して、『共に支えあう地域社会』をつくるために』をテーマとした講演会が、平成二十二年七月十一日にビッグハート出雲を会場に開催されました。

これは、罪を犯した人たちが、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、共に支え合う地域社会をつくるためには、地域住民として何をすればいいのかを、一緒に考えることを目的としています。



講師に元衆議院議員の山本議司氏をお迎えしました。山本氏は、一九八五年、菅直人代議士の公設秘書になり、二十六歳から東京都議会議員

を二期務め、三十四歳で衆議院議員になりました。順調にみえた政治家人生は、二期目の当選直後に、秘書給与搾取事件で東京地検特捜部に逮捕され、二〇〇一年に懲役一年六カ月の一審判決を受けて黒羽刑務所に服役されました。

刑期満了後から書き始めた、四百三十三日間の獄中生活の記録『獄窓記』を二〇〇三年に出版され、読者の共感を得て、新潮ドキュメント賞を受賞されました。

講演では、元受刑者としてのレッテルをはられながらも、福祉の道に専心努力された険しい道のりの秘話を実体験とその苦勞を交えて切々と話されました。

「刑期を終えて出所する受刑者や仮釈放で出所する受刑者の中には、引き受けてくれる人がいない人もいるが、自分には、仮釈放を心から待って迎えてくれる妻と一歳半になる息子がいる。それがとてもありがたかった。」と、何度も繰り返され、途

中で声をつまらせながら話されました。

愛する家族の温もりに支えられて服役し、刑期半ばで仮釈放を許されたことへの感謝の言葉を聞いた私は、感涙しました。

「服役生活は、凶悪犯の収容所だと思っていたが、実は居場所のない障がい者の受け皿であり、入獄前に描いていた刑務所内とは大きくかけ離れた実態であった。」と、話されました。

懲役作業は、心身に障がいのある受刑者のお世話で、受刑者仲間との下世話をする係をされました。刑務所が、居場所のない障がい者の受け皿である実態を目の当たりにして、障がい者の支援活動に取り組まれた経緯を、口角泡を飛ばしながら、力説されました。

それを聞いた私は、毎年研修として訪問する刑務所の実態とは、随分違う処遇であることを知りました。

山本氏は仮出所の折に、刑務官に「自分は、今後、福祉の道に携わって行こうと考えている」と約束されました。しかし、福祉士をめざして受験されましたが不合格となり、行く道を閉ざされ、希望を失われてひきこもり、失語症などの苦しい生活をさ

れました。

失意の中で、息子さんの急病で病院に行かれた時、障がいのある幼児を抱えた母親との出会いをきっかけに、障がい児福祉の道をめざされました。

「学生時代から、挫折することを知らず、全て順調に歩んだ人生で、我が道にはばむもの無しとの傲慢さがつまずきの原因となり、服役経験が人生を変えた。」と、反省の言葉を述べられました。

「障がい者問題に道筋をつけないと受刑生活は終わらない」との真摯な意気込みで、障がい者福祉活動の充実に満身を捧げている山本氏の講演に、参加者一同敬意と応援のエールの拍手を惜しみませんでした。

現在、福祉関係者と共に、「障がいのある受刑者の出所後の居場所であるシェルター」やPFI刑務所「播磨社会復帰促進センター」「島根あさひ社会復帰促進センター」の計画立案・運営に精力的に尽力されています。この講演を聞いた私は、全ての人が共に支えあい、手を携えて、安心して暮らせる明るい社会が実現することを願っています。

出雲地区保護司会の研修について

定期の研修として、松江保護観察所と協力し、実務上必要な知識及び技術の全般的な水準向上を図ることや、地域内の当面する課題解決のために、年4回実施しています。

また、自主的研修会を年2回開催して、自己研さんに努めています。

年1回西日本を中心に刑務所等を視察し、実際の矯正現場で研修することにより、保護司としての役割の確認や、日々の更生保護活動の取組みの参考にしています。

視察研修旅行記

保護司 原 洋子

平成二十二年度出雲地区保護司会研修旅行は、六月十六日～十七日に実施されました。今回の参加者は男性二十名、女性十六名と、いつもとは異なり男性保護司の参加者が多かったです。

研修地は和歌山市加納の和歌山刑務所。施設は明治二年藩政改革の際、市内に監倉を設置、その後監獄、監獄署と改称をくり返し、昭和七年五月に現在地に新築移転し、昭和二十一年四月和歌山刑務所と改称し、女子受刑者の刑務所として独立。

施設の特徴は大阪管内で唯一の女子刑務所です。

また、西日本で確定した外国人も収容しているとのことでした。

収容定員は五百名で、覚醒剤が最も多く、窃盗、殺人、詐欺、放火が入所事由で、外国人は約百名入所していました。

年齢は最高八十九歳最低十九歳で、平均は四十五歳、職員の平均は二十五、六歳であり、年齢差が大きく、職員の研鑽を積む必要を感じているとのことでした。

入所者に対しての処遇としては次のようなことが行われています。

入所時 刑執行開始時指導、処遇調査、処遇要領の作成
中間期 刑務作業、職業訓練、一般特別指導、教科指導があり、処遇要領の変更や方針の見直し

釈放前 刑事施設外処遇、就労支援、釈放前指導

収容人数は定数を超えていて、高齢化、多くの外国人の入所、また近年の傾向として覚醒剤での入所者の多いこと

とも知らされまし

た。

作業内 容はエプロン等を中心とした縫製、家庭用品の組立、

加工など。職業訓練として介護サービス科、美容科、販売サービス科が設置されていました。

美容科では、施設内に美容室を常時開いていて、地域のみなさんが沢山利用されているとの説明を受けました。

また、庭や居室には花などがあり、色彩豊かなのが印象的でした。

CAPIC（矯正協会刑務作業協力事業部）において、刑務作業製品のエプロン等の縫製品、他刑務所の革製品や雑貨等が販売されており、私たちはそれぞれに買い求め、和歌山刑務所を後にしました。

二日目の研修地の高野山は和歌山県北部の標高約八百メートルの山上に開かれた真言密教の聖地です。千二百年前に宗祖である空海（弘法大師）がこの地を開き、百カ寺以上が密集する、日本では例をみない宗教都市です。

平成十六年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として、世界遺産に登録されています。

今回の和歌山刑務所、そして明治三十七年までは女人禁制であった高野山との因果を思いながら、研修を無事終えました。



立ち直りを支える 地域のチカラ

更生保護の活動は、保護観察官や保護司などの関係者だけでなく、多くの方々のチカラが必要です。みな様のご協力をお願いします。

裁判員制度が平成二十一年五月に始まりました。一部新聞報道によると、裁判員の方々が「判決後よく思い出すこと」として「被告人の更生」を一番多く挙げています。

裁判員裁判では、「保護観察付執行猶予」という判決が多く出されています。これは、法廷で被告人と向き合った裁判員の中に、「被告人ひとりではなく、社会の中で様々な人と関わりながら指導や助言を受け反省し立ち直ってほしい」という声があったからではないでしょうか。

犯罪や非行をした人のほとんどは、いずれは地域社会に帰っていきまします。罪を犯した人たちが、自らの過ちと真摯に向き合い再び罪を犯さないように、その立ち直りを支える制度が『更生保護』です。

更生保護を支える民間の団体として、更生保護女性会、BBS会、協力事業主会があり、出雲地域では、それぞれが特色を活かした活動を行っています。

こうした更生保護団体の活動だけではなく、身近な地域に誰か支える人がいれば、立ち直りへと歩み続けるチカラとなります。

本当の更生とは「自分の心、存在を丸ごと受け入れてくれる人を持つことであり、自分の存在を大切に思えるようになる」ことではないでしょうか。

地域にお住まいのみな様にも、罪を犯した人たちが、地域でホッとできる場所、温かいつながりを持てるような手立てを作っていただき、立ち直りについて身近な問題としてとらえ、一緒になって『更生保護』を考えていただくように、ご協力をお願いいたします。

更生保護

功労受賞者

(平成二十二年)

全国保護司連盟会長表彰

勝部 治良 来海 正和

島根県知事感謝状

片寄 恭江 錦織 博子

中国地方更生保護委員会

委員長表彰

川上 誠 森山 正洲

和田 明男

中国地方保護司連盟会長表彰

岸 篤彦 高瀬 泰子

松江保護観察所長表彰

長子 明久 川瀬 紘一

斎藤 正史 周藤 千雪

周藤 昌夫 福岡 百樹

松村 正利 和田 晶隆

宮本 明子 山岡 孝

島根県保護司会連合会長表彰

朝山 一玄 天野 良枝

市場 隆子 小村 恵子

園山 幸子 藤本 浄信

渡部 勝

保護司の異動

◎退任

古瀬 光治(野尻町)

(平成二十二年十一月三十日)

◎新任

高尾 彬(稗原町)

(平成二十二年十二月一日)

出雲地区保護司会広報部会

保護司会だより編集委員

◎部長 ◎副部長

◎柳榮 利子 ◎古瀬 光治

安住 文雄 勝島 徹正

和田智恵美 土江 松子

宮本 明子 福岡 百樹

松村 正利 天野 良枝

富岡 俊夫 安田 公臣

藤田 努 安井 守

坂根 光紀

編集後記

地域のみな様や関係機関のご協力、ご支援により、「出雲地区保護司会だより」第十四号を発行させて頂くことになりました。

「保護司会だより」が、みんなが安心して、明るく住める地域の実現の一助になれば至上の喜びと存じます。

これからも、ご支援、ご指導をお願い申し上げます。(柳榮利子)